



五感をゆさぶる自然素材と「子どもあそび」の深まり

11月

土

・雨の降った翌日、シラスの山は手で掘れる程、柔らかくなっているのに気づいて、手ご穴を掘ってあそびはじめの子がいた。その様子を見て、一緒に真似てあそぶ子がたくさんできて、みんなご穴を掘ってあそんでいた。



ほら！わたしの穴
大きいよ！！

お団子
作ろうと

・掘って出てきたシラスをまた手でたたいて固くし、山を作ってあそぶ。



見て！！かたいよ！！この山、大きいでしょ？

先生にごはん作ってあげる

・皿に土を盛り、その上に草をちぎってのせ、野菜に見立てている。



わたしもお野菜もって来たよ

・年中児と一緒に釜土と泥団子作りをする子。釜土は粘土質なので作りやすいことに気づいていた。

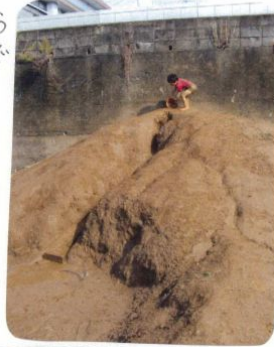


泥んこ

・土山から流れる水をせき止めるように、下の方に板で壁を作り、また上から水を流して、何度も実験するようにあそんでいた。



うん、でてる...



・泥んこを板の上ののせてペタペタと感触を味わったり、木ぎれでこねたりしながら見りつけてあそぶ。



木

・木登りに挑戦。できる子を真似して登りはじめ、たくさんの子が登れるようになってきた。



ぼく、登れるよ！！見せて



登れるようになったかー



・水たまりの上に板を置いて、その上を渡ってあそぶ。わーい、橋だあ！落ちるー

